

## EIT-JSCE Joint International Symposium on International Human Resource Development for Disaster-Resilient Countries 2014 実施報告

この度、土木学会岩盤力学委員会は、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受け、日本とタイとの岩盤工学および関連分野の技術交流を目的として、土木学会の協定組織であるタイ王立工学会 EIT (Engineering Institute of Thailand) と連携し、「EIT-JSCE Joint International Symposium on International Human Resource Development for Disaster-Resilient Countries 2014」を、以下の要領で開催しました。

1) 講演会 (一般セッション)

開催日：2014年8月25日(月)

開催場所：Imperial Queen's Park Hotel (タイ・バンコク)

2) 講演会 (学生・若手技術者セッション)

開催日：2014年8月26日(水)

開催場所：Imperial Queen's Park Hotel (タイ・バンコク)

3) フィールドトリップ

開催日：2014年8月27日(木)

訪問場所：バンコク外環状道路 (Outer Ring Road) 補修現場



講演会場

本イベントでは、日本側から42名(内学生19名)、タイ側から20名の参加者を得て、第1日目の講演会(一般セッション)に加えて、第2日目には当該分野の日本ならびにタイの学生・若手研究者に対して、英語でのプレゼンテーションの機会を提供する学生・若手技術者セッションを開催しました。また、第3日目には2011年のバンコク大洪水被害を受けて、現在洪水対策を含めたバンコク国道9号線・外環状道路(Outer Ring Road)補修現場へのフィールドトリップを開催しました。



基調講演の様子

第1日目の講演会(一般セッション)では、岩盤力学に関する様々な研究成果が発表されましたが、以下の3テーマの研究発表が注目されました。1番目のテーマは、風化岩盤斜面の降雨に起因する浅層崩壊です。気候変動の影響を受けて日本のみならずアジア各国では集中豪雨の発生頻度の増加に伴い、斜面災害が多発しつつあることが議論され、その知識を共有することの重要性が再認識されました。2番目は、2011年3月および2014年5月に、タイ北部・ミャンマー国境付近で発生した地震災害です。従来、インドシナ地域では地震の発生がほとんどなかったため耐震設計の重要性は認識されていませんでした。しかし、タイでの地震においては斜面災害の他にも、液状化の発生も確認されており、日本からの技術協力の必要性が議論されました。3番目は、日本のODA(円借款)事業によるネパールでの大規模斜面を含む道路建設プロジェクトでした。このプロジェクトの報告に対しては、タイのネパールからの留学生から国の発展に対する日本の援助への謝意が示されるとともに、出席者間で日本のODA事業によるインフラ建設事業の必要性および今後の有り方に関して議論がなされました。

第2日目の講演会(学生セッション)では、岩盤工学および関連分野を研究対象としている学生・若手研究者に、タイの学生(アジア工科大学、カセサート大学、スラナリー工科大等)と合同での、英語でのプレゼンテーションを実施しました。同セッションは、2007年から開催して今回で8回目です。開始から当初の2~3年は、残念なことに日本人学生の英語によるプレゼンテーション能力は、タイ人学生に比較して明らかに劣っていましたが、回を重ねるに連れて日本人学生の英語能力は目に見えて改善されてきました。ただし、発表は改善されましたが質疑応答では、全く回答できない学生も数多く見受けられました。しかし、本年はかなりの日本人学生が質疑応答をこなせるようになってきました。昨今、大学教育の国際



フィールドトリップの様子

化の必要性が唱えられていますが、学生の語学能力の向上には、このような場を提供し、そして継続することが最も有効な方策となることを実感しました。

今回のイベントを通して、タイと日本において共通の研究課題が増加しつつあることが再認識されるとともに、教育の国際化に関する発展過程も目にすることが出来ました。今後とも、このような取り組みを実践することが、岩盤力学分野を始めとして日本の土木工学の発展に寄与するものと確信した次第です。

【記：京都大学大学院工学研究科 大津 宏康】